



宮城県高齢者生協新聞

(ささえあい生協宮城)

2018年7月31日号(第127号)

■発行所 宮城県高齢者生活協同組合  
発行人 菅野 俊明

〒981-8006

仙台市泉区黒松1-14-25



TEL 022-727-6577

FAX 022-727-6588

No. 127

E-mail: [koreikyo@poppy.ocn.ne.jp](mailto:koreikyo@poppy.ocn.ne.jp)

URL: <http://miyagi.koureikyou.or.jp>



丹野幸子理事長



会場の様子

生協運動の原点を  
忘れず、夢のある、  
魅力ある活動を！

総代会  
特集  
会号



高見優 様

●6月17日(日)、フリスコ仙台にて第10回通常総代会を開催しました。(本人出席48人 委任状3人 書面議決38人 計89人)  
9名の方から質疑やご意見をいただき、提案された全議案は賛成多数にて採択されました。  
●総代会に先立ち、日本高齢者生活協同組合連合会会長理事高見優様から「私たちが一人ひとりの(そして高齢協)が、地域で、知り学ぶ理解こそが、行動を起こす一歩のみの地域をつくる」というテーマで記念講演をいただきました。  
●宮城県知事、仙台市長、その他多くの方々よりメッセージをいただきました。  
●総代会終了後、会場を移して懇親会を行い、交流を深めました。

●記念講演  
高見優様

(ササエあい新潟理事長・  
日本高齢者生活協同組合連合会  
会長理事)

介護事業が厳しい中、国の情勢をみながら、儲けるだけではなく、しっかりとした仕事をすることが高齢協の特徴だと思います。だからこそ「福祉 生きがい 仕事起こし」を常に忘れず、新しい職員に辛抱強くしっかりと理念を教える事を怠ってはいけません。

福祉のことだけではなく、お金、病気、子供の教育などこれらを「丸ごと」取り組んでいくのが「地域福祉事業者作り」です。高齢協連合会では、利用者家族の相談事を受け止める「総合相談窓口」を作ろうと思っております。一人も取りこぼさないように。排除のない社会をいつ作っていくか、これからもっと大事になっていくのだと思います。ある本の中に、「高齢者母性も、みんないずれおひよりのまじなる。お金の人も人間関係で乗り切れる。仲間がいれば乗り越えられる。」とありました。そう、いつの日か、高齢協運動の出発点です。

地域の方と出会い法人の枠を超えて活動しなければならぬ。一人ひとりが仲間と財産です。

### ◇開会あいさつ

(理事長 丹野幸子)

今年設立20周年を迎えます。今年には日本の生協運動の父賀川豊彦の生誕130年にもあたります。この生協運動の理念を土台として私達の事業運動があります。介護現場では人材の不足や厳しい事業運営を抱えながら利用者の介護を支えています。宮城高齢協では働く人たちが精神的ゆとりをもって仕事に創意が込められるように、正当な報酬がもらえ、よきことなればならぬと思っております。議案書を読んだ組合員の方からも貴重なご意見を頂きました。自立的・自発的・自分達の問題として取り組ん、それを協同の運動としていく、そんな生活協同組合の運動の原点を思い出しました。

### ◇来賓あいさつ

渡辺淳子様

(宮城県生活協同組合連合会常務理事)

私たちの暮り方は来年秋には消費税増税が予定されるなど一層厳しさを増す事が予測されます。また、国の介護サービスを抑制する政策のため、必要な介護サービスを受けられない時代になるか心配です。



渡辺淳子様

2015年に国連総会で採択された持続可能な開発のためのアジェンダでは、協同組合に対する地域社会における役割への期待が高まっています。今後協同連帯の輪を広げて、誰もが安心して暮らせる地域作りを目指して共に頑張ります。

### 高見優様

(日本高齢者生活協同組合連合会)

会長理事)

私たちは協同組合であり、組合員の数や、出資金が増えることが大切です。安定的な事業性と社会性が求められます。昨年度は高齢協連合会の約半数の単協が赤字になり、それが必死になり健闘し改善の方法

を考えているところだと思えます。高齢協連合会が全国の現場の声を伺い役に立てればと思います。

### ◇議案の提案

議長と竹内信男総代と釜田業由紀

総代を選出した後、第1号議案「2017年度活動報告及び決算承認の件」、第2号議案「2018年度活動方針及び予算決定の件」、第3号議案「役員選任の件」第4号議案「役員報酬限度額決定の件」、第5号議案「議案決議効力発生について」について、菅野専務理事より提案されました。

### ◇監査報告

高橋初子監事より監査報告が行われました。合わせて、経営と計画

内部統制システムの整備、リスク管理、団体内のルール整備と遵守など、監査意見書の詳細について報告が行われました。

### ◇総代発言要旨

○大木正俊総代 (仙台市泉区)

人材を確保する方法や中期計画について発言します。まず、人が仕事をしたい時にはその組織に「夢」があ

るが、次に、組織のリーダーに魅力があるのか、自分が働く場所に素晴らしい人材がいてそこから学ぶ事が出来るのかという点が挙げられます。

中期計画に

ついては高

齢協の理念

として「生

協の理念や

原則を元に、

高齢者・障害

を持った人たちの自立と福祉尊厳を

守る、目的として「福祉・生きがい

仕事起こしの事業活動を」とい

う部分が挙げられます。まず、実現

可能なビジョンを明確にし、それを

元に中期計画を立てます。3年スパン

が最も適しています。

### ○小岩理子総代 (いしの庵 じぶん)

利用計画数、予算に届かなかった

理由の一

つに、最後

まで自分で

で書いて

たいとい

う思いが

あっても



大木正俊様



小岩理子様

実際はなかなかそうなっていないことがあつたのではないかと感じています。本来の地域包括支援の構築と並び経営の安定の為に地域全体の意識を高める取り組みも必要と考えています。組合員や、運動を通じて行政等に声をあげてきたいと思っています。いろいろ庵づくりの職員は常勤非常勤共にづくりをしようというのか、信頼を勝ち取っていかかを日々心に留めながら仕事をしています。

○田中紀子総代・熊合圭子総代

(仙台市泉区)

(田中総代) 泉中央老人福祉センター

ーこの付き合いは約20年近くになります。現在、六和功教室と愛好会の代表としており、手作サークルも行っていきます。またサポーター会では館長やセンター職員と一緒に、より良くなるために活動しています。



田中・熊合総代

(熊合総代) 手作のサークルは10年程前に田中総代を代表・講師として立ちあげ、活動は手提げバッグ、ティッシュ入れ、カード入れ、プローチなど数えきれないほど作ってきました。センター祭、社会福祉センター祭や仙台が主催のシニア祭等に出席しています。月2回、約20名のメンバーがお互い会話も楽しみながらマイペースで作品作りに励んでいます。

○遠山ちよみ総代 (石巻市)

ひなたぼっこ石巻はボランティア

1名、丹野理事長、発言者の計3名で活動しています。主な行事として定着しているものは第1・2木曜の着物リフォーム教室、毎週水曜の習字教室。週に1回のカラオケ愛好会、は昼休憩もとって、午後も楽しんでいきます。2カ月に1回郷土史を聞く会は風食会も合わせて行っており、とても好評



遠山総代

です。その他には月1回お花教室

小物教室、パソコン愛好会等もあります。被災して7年が経ち、それぞれ自分の生活リズムも落ち着いてきて楽しみ方を工夫しながら希望を持った生活ができていると思います。

○一関邦人理事

(放課後学童サービス社)

利用児の支援において、家族・学校・他事業者と連携するために、担当者会議というものが開かれます。その会議を主催し支援の方向性をまとめる相談支援事業所の重要性を感じています。学齢期を終えた後も、地域資源を発見・利用した繋がる支援を行いながら利用者とともに歩んでいくという仕事が、地域とともに福祉のまちづくりに関わっているという高齢協の理念と重なる部分を感じます。次に進む為に相談支援事業所を作ることにチャレンジしたいと思っています。



一関理事

○永野まの子理事

(泉西部地域福祉事業所)

田沼裏庵たかもりを中心に、泉西部に位置する5事業所で連携しています。事業を立ち上げる時に手伝わってくれたスタッフや、野菜やおかず、お菓子等を持ってきてくれる多くのボランティアやいろいろなサークルの人に来ていただいて盛り上げてもらっています。生活



永野理事

支援のお手伝いも包括支援センターから依頼を受けたい、コミ捨たな中学生の方にお願ひすることもあります。自分の地域に必要な、欲しいと思つたものを作りたいと思ひ、やってきた事は間違ひではなかつたと思ひしています。問題意識を持ちながら地域を変えていき、地域になつてはならないものを生み出している内に作らされたと思っています。

## ○水戸部務理事（仙台市若林区）

### 環境問題

への取り組  
みに関して、  
発言します。  
本日、青年文  
化センター



水戸部理事  
で、女川原発

再稼働の是非をみんなで決める国民  
の会（みんなで決める会）」の第2回  
目会議を行っています。「みんなで決  
める会」は国民投票を行う事を目指  
しています。非常に手続きが難し  
く、条例から作りなければならぬ。  
条例を作るには署名を集める受任  
者を約15000人登録が必要です。  
以前、仙台港に関西電力が石炭火力  
発電所を作ることの問題点をお話し  
しました。その後、四国電力が高松港  
に石炭火力発電所を作ることとして、  
住民の反対運動等の動きを見て撤退  
しました。住民の声は大きな障壁を  
打ち破る力があります。

## ○杉本豊義総代（仙台市泉区）

「地域高齢者の理念を実現するために、  
わかりやすいメニューにはなりたいわ  
相談のついでにねんごうを窓口を作

るべき。そこ  
から組合員  
増加につな  
がると思う。  
また、従業員  
は給料が働  
く原動力である為、従業員は家族で  
ある気持ちを持ち、温かい気持ちで  
少しでも給料をアップすればこれか  
ら厳しい状況になっても辛いことが  
あっても頑張れる。また、笑顔は一  
番のサービスであるから笑顔は忘れ  
ないように。



杉本総代

国や自治体からの補助金について  
内訳を知りたい。県や市にもっと補  
助金を増やして欲しい旨を伝えるは  
どうか。本日支給された弁当飲み物  
について半額は請求しても良いので  
はないか。細かい所からの節約が大  
事だと思います。

## ○笹原由蔵総代（仙台市泉区）



笹原総代

中期計画については理事会でも議  
論を行い3年計画とするのが妥当で  
はないかという事になりました。理  
念・ビジョン、具体的な事業計画・  
税務計画、職員の待遇改善、人材確  
保の計画等も盛り込んで全体的な計  
画についてきたいと考えています。  
最近、組合員の「家族から寺岡で  
空室家になっている物件を高齢協で  
使って欲しいとの依頼があり、永野  
副理事長が中心となって、地域しく  
りの拠点として活用方法を検討して  
います。

## ◇まよぬ

### ○菅野俊明専務理事

（笹原総代から  
の質問に関し  
て）この庵こ  
ぶしを作る際  
に国から仙台市を  
通じて建設の補  
助金として3200万円、開設準備  
金・運営補助金として400万円、  
雇用助成金として200万円程受け  
ています。弁当、飲み物の件に関し  
ては、出資金という形で協力をお願  
いします。



菅野専務理事

## ◇採決

第1号議案：2017年度活動報告  
及び決算報告の件

満場一致で採決

第2号議案：2018年度活動告知  
及び予算決定の件

書面議決保留1  
賛成多数で採決

第3号議案：役員選任の件

満場一致で採決

第4号議案：役員報酬限度額決定

書面議決及対5

書面議決保留3

賛成多数で採決

第5号議案：決議効力発生の件

満場一致で採決

全議案は賛成多数で採決されました。

## ◇特別決議

囲炉裏庵たかもりの丸山博子総代よ  
り総会アピール提案の発表が行われ、  
満場一致で承認されました。

## ◇第1回理事会報告

二役・理事・監事が決定され、菅  
野専務より発表されました。

※常務理事に関しては定款で定められている通り、1〜3名を今後理事長が選出予定。

### ◇退任理事・新任理事挨拶

退任される理事・監事の方が紹介され、理事長から感謝状と記念品が授与されました。

佐々木陽悦 副理事長

遠藤クニエ 理事

川上洋子 事務局長

高橋初子 監事

板橋恵美子 監事



佐々木陽悦副理事長



遠藤クニエ理事



高橋初子監事



板橋恵美子監事



退任理事表彰 (遠藤理事)

### ◇閉会挨拶

(副理事長 永野二男)

杉本総代が提案した相談所については全ての事業所が窓口になっています。プロはなまの相手のお話を聞く、分からない場合は関連施設に問い合わせる、という流れは、

われる場所にしていきたい。事業を担う人材を育成する事、経営の資金繰りが最重要課題として挙げられます。資金繰りをしながら経営を健全にしていくな必要があり、そのためには各事業所の収入が健全化される事が不可欠です。また今回、総代会の準備

をする段階で職員が30人程おられ、以前は数人しかいなかった為、様々な事があっても即進している事を実感しました。

永野副理事長



### \*地区別懇談会々名取\*

6月8日、本部から川上事務局長と2人で名取の遠藤クニエ理事を訪問しました。近くの老人福祉センター「やすらぎ荘」には、これまで総

のつきろいではありません。それぞれを尊重し、もたれ合わない関係の中で協同して地域の文化を創ってきた、名取の組合員活動に敬意を感じます。

代を受けていただいていた15人の組合員の方が集まっています。初から活動に関わり、高齢協運動の土台を創り、高齢協の歴史と一緒にその活動をすすめていった方々なので、高齢協に対する思い入れは特別なものを感じます。地域に住む仲間が、共に助け合い、協同活動で生活を支え合っています。助け合い協働できるという事は、精神の確かな強さがなければできないことだと感じます。お互いが、自分らしいものを持つていなければ、平等

19日、歴代総代の皆さんは真剣に議案書を読んでこられ、様々な観点から意見交換をしました。平均年齢は84歳です。でもまだ現役で平和の署名活動をしている方、日常の暮らしをお洒落で心豊かにするための工夫を日々奮闘している、筋金入りの組合員の皆さんです。この地域組合員をまとめてくれた遠藤さんが今年には理事を退任し、顧問になるという事で、心づくしの沢山の馳走がテーブルに並べられ、遠藤さんの長年の労をねぎらう感謝の会でもあり、あたたかい地区別懇談会でした。(理事長 板橋恵美子)

# 2018新体制

## 役員・理事・監事紹介

理事長	丹野 幸子 (代表理事)
副理事長	永野 三男 伊藤 恵仁
専務理事	菅野 俊明 (代表理事)
理事	加藤 公子 菊地 きいこ 坂林 哲雄 佐藤 郁子 鈴木 孝志 (新任) 長尾 智美 永野 まの子 二関 邦人 羽田 ふさえ (新任) 半澤 晃 平上 博資 (新任) 水戸部 秀利 山崎 次子 竹内 信男 (元) 三船 洋人 (新任) 横尾 盛雄 佐々木 陽悦 (新任) 遠藤 ノエ (新任)
顧問	

## 第1回理事会報告

7月11日(水曜日)14時に、センター事業団東北事業本部会議室にて、第2回理事会が開かれました。

### 役員体制について

専務理事を1名とし、丹野理事長より長尾智美理事が推薦され承認されました。4役員会議と職員理事会を設置し、全体の経営責任、管理体制の責任を明確にし、事業管理運営について体制を明確にして、事業部長を配置し運営を図ることにしました。

### 〇介護福祉事業部

### 〇障害福祉事業部

### 〇組織部(検討中)

を設けることが提案されました。

### ・賞与について

今期の夏季賞与について、現在の経営状況から、昨年度支給(0.8ヶ月)から7月10日現在の判断を基準とせず、0.5ヶ月支給を提案され、承認されました。

### ・中期計画について

中期計画の策定については、策定委員会の設置を三役会議で検討して2017年度中に計画案を提示するよう、なごが報告されました。

## 障害福祉サービスの事業報酬改定について

今年4月に、障がい福祉サービスの報酬改定が行われ、なかでも「放課後等デイサービス」の「基本報酬」の改定については、その影響の大きさに全国的に議論が起こっております。一律だったこれまでの形式から、重度の障がい児を多く受け入れると報酬を厚くする形式となり、国の定める指標に基づいて市町村が子供たちを判定、「重度」の子が半数以上いる事業所は「区分1」、それ以外は「区分2」とされました。区分2になるままでの10%前後、報酬が減額となります。仙台市、そして全国的にも8割近い事業所は区分2になり、大幅な減収となります。今回の改定は、利潤追求・質の低下が問題となっている一部事業所に対する対策という意味合いだったようですが、大部分の事業所までが苦境にたたされ、人件費削減などで支援の質の低下が心配されています。また、指標での判断や方法が明確ではなく自治体によってバラバラなところも、何のための判定なのか、保

護者への説明が不十分なまま運用が始まっています。

全国の放課後デイの事業者で作る「障害のある子ども放課後保障全国連絡会(全国放課後連)」で実施された緊急アンケートでは、大幅な減収で存続の危機にある事業所も20%に上っている実態が示されました。また、「杜」も加盟している「放課後ケアネットワーク仙台」では、5月10日に話し合いの場を仙台市との間に設けたり、7月10日には例年行っている仙台市への要望書の提出を行い、現場から上がった様々な声とともに、継続的に話し合っていくというように伝えました。仙台市からは、近々出される国の方針を受けて、仙台市としての考えを伝えていくと返答がありました。

宮城県議会の超党派の議員団からも、事業所の運営を維持できるように意見書が提出されました。利用者のより良い支援のため、という原点を忘れず、全国の事業者との連携をとり、議会・行政へ継続して働きかけを行っていきます。

(編集部)